

# 神根中だより

～自他共に認め合い学び合う  
夢と笑顔と潤いのある学校～  
令和8年5月号

学校教育目標  
主体的に学び合い  
心豊かでたくましい生徒



川口市立神根<sup>かみね</sup>中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1  
電話 (048) 296-7025

## “褒めること”と“叱ること”

校長 寺田 和成

新年度がスタートして約1ヶ月が経ちました。その間、始業式、入学式、新入生歓迎会など、いくつもの行事がありました。普段の学校生活をはじめ、様々な場面で生徒たちの立派な姿や活躍する様子、そしてたくさんの笑顔を見ることができ、学校は今とても活気に満ち溢れています。年度当初から、歴代の先輩方からのよき伝統が引き継がれており、神根中生としての自覚や誇りをしっかりと感じることができました。また、先月の授業参観や部活動保護者会では、たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、心より感謝申し上げます。今後とも、子供たちの良き成長のために、学校・家庭・地域が同じ方向性で協力・連携し、子供たちを見守り、育てていきたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、子供たちを育てていく上で、一般には褒めて育てることが良いと言われていますが、実はこの「褒め方」について、興味深い研究結果があります。スタンフォード大学の心理学教授は、子供を対象に研究を進める中で、“学ぶことが大好きで、何にでも挑戦しようとする子供”がいる反面、“失敗することを恐れ、新しいことに挑戦するのを避ける子供”がいるということに気づき、その検証のためにある実験を行いました。思春期初期の子供たち数百人に簡単な問題を解かせ、みんなに良い成績をとらせた後、2つのグループに分けます。そして、片方のグループには「頭がいいね！才能があるね！」というように「能力」を褒め、もう片方のグループには「頑張ったね！よくやったね！」というように「努力」を褒めます。次に、簡単な問題と難しい問題を2種類用意して、子供たちに簡単な問題を解くか、難しい問題に挑戦するかを選ばせます。すると、2つのグループ間で明確な差があらわれたのです。「能力」を褒められたグループでは、大半の子供たちが簡単な問題を選んだのに対し、「努力」を褒められたグループでは、9割の子供たちが難しい問題を選んだということです。これは、「能力」を褒められると“次にできなかつたら自分の能力が疑われるかもしれないと、間違いを恐れるようになる”のに対し、「努力」を褒められると“努力することに喜びを感じ、さらに努力が認められるようにとチャレンジ精神をもつようになる”ということなのだそうです。つまり人間は、能力や才能など生まれもったものを褒められるより、努力や行動などを褒められたほうが、長期的に自信をもち続けることができ、何事にも積極的に挑戦していくことができるのだということです。

その一方で、日本の心理学者の中には、このように分析している方もいます。

失敗を恐れてチャレンジできない若者。ゆるく生きるのに馴染みすぎて頑張れない若者。注意や叱責にすぐに反発する若者。ちょっとしたことでひどく落ち込む若者。傷つきやすく鍛えることが難しい若者。そのような若者が明らかに増加している。こうした問題は、「褒める子育て」「叱らない子育て」の普及によってもたらされた面が大きいのではないだろうか。絶えず褒められるばかりで、叱られてネガティブな気分になることがなければ、厳しいことを言われて不快感を与える相手避けたり、耳に痛い言葉をスルーしたりする心の癖が身についてしまう。それでは自分を振り返って、短所や至らなさを修正するチャンスがなかなか得られないし、失敗から学ぶことはできない。

別にこの学者は、褒めることを全否定したり、叱ることを無条件で推奨しているわけではありません。“褒めること”と“叱ること”、この双方のバランスが大切であるというごく当たり前のことを言っているにすぎません。しかし、この当たり前のことを、我々大人は今、どれだけ自信をもって子供たちに実行できているのでしょうか。